

6 スポーツボランティア

6-1 スポーツボランティアの実施率

スポーツボランティアとは、報酬を目的としないで、自分の労力・技術・時間などを提供して地域社会や個人・団体のスポーツ推進のために行う活動を意味している。

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者は全体の6.7%で、2014年調査と比べて1.0ポイント減少している（図6-1）。1994年からの経年で見ると、2010年に8.4%で最高値となったが、その後はわずかながら減少傾向がみられる。今回の結果から、過去1年間のスポーツボランティア人口を算出したところ、712万人と推計された。

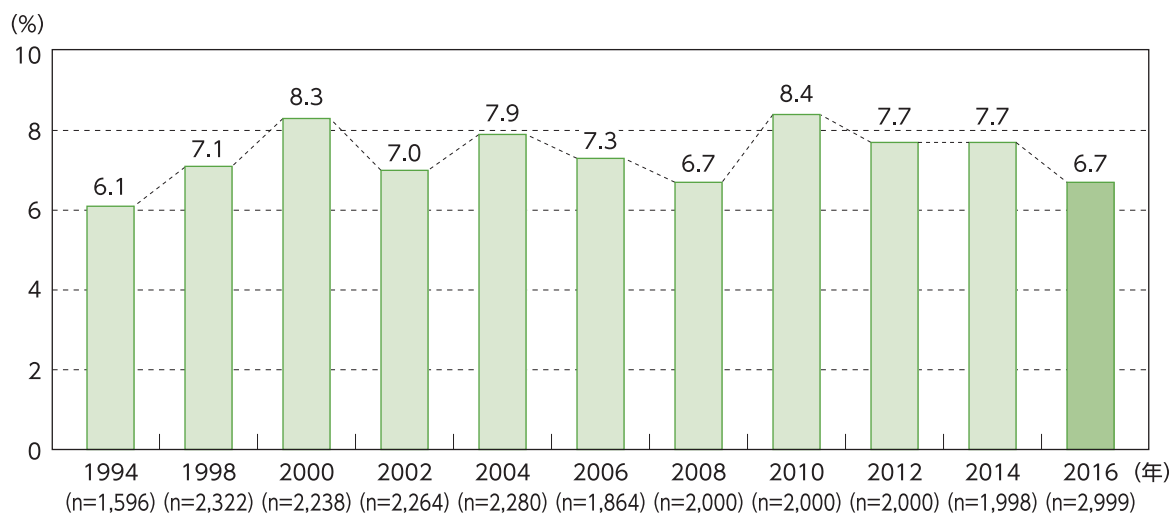
スポーツボランティア実施率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別にみた（図6-2）。性別にみると、男性が8.1%、女性が5.4%であった。男性の実施率が女性より高い傾向は過去の調査と同様である。

年代別にみると、18・19歳9.5%、20歳代5.1%、30

歳代8.2%、40歳代9.3%、50歳代6.3%、60歳代6.1%、70歳以上3.9%であり、今回から新たに調査対象として追加した18・19歳が最も高い割合を示した。20歳代以降の結果をみると、40歳代の実施率が最も高く、この傾向は過去の調査と同様であった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、「レベル0」1.6%、「レベル1」7.1%、「レベル2」5.5%、「レベル3」7.6%、「レベル4」13.3%と、「レベル0」の実施率が低く、「レベル4」の実施率が高い。

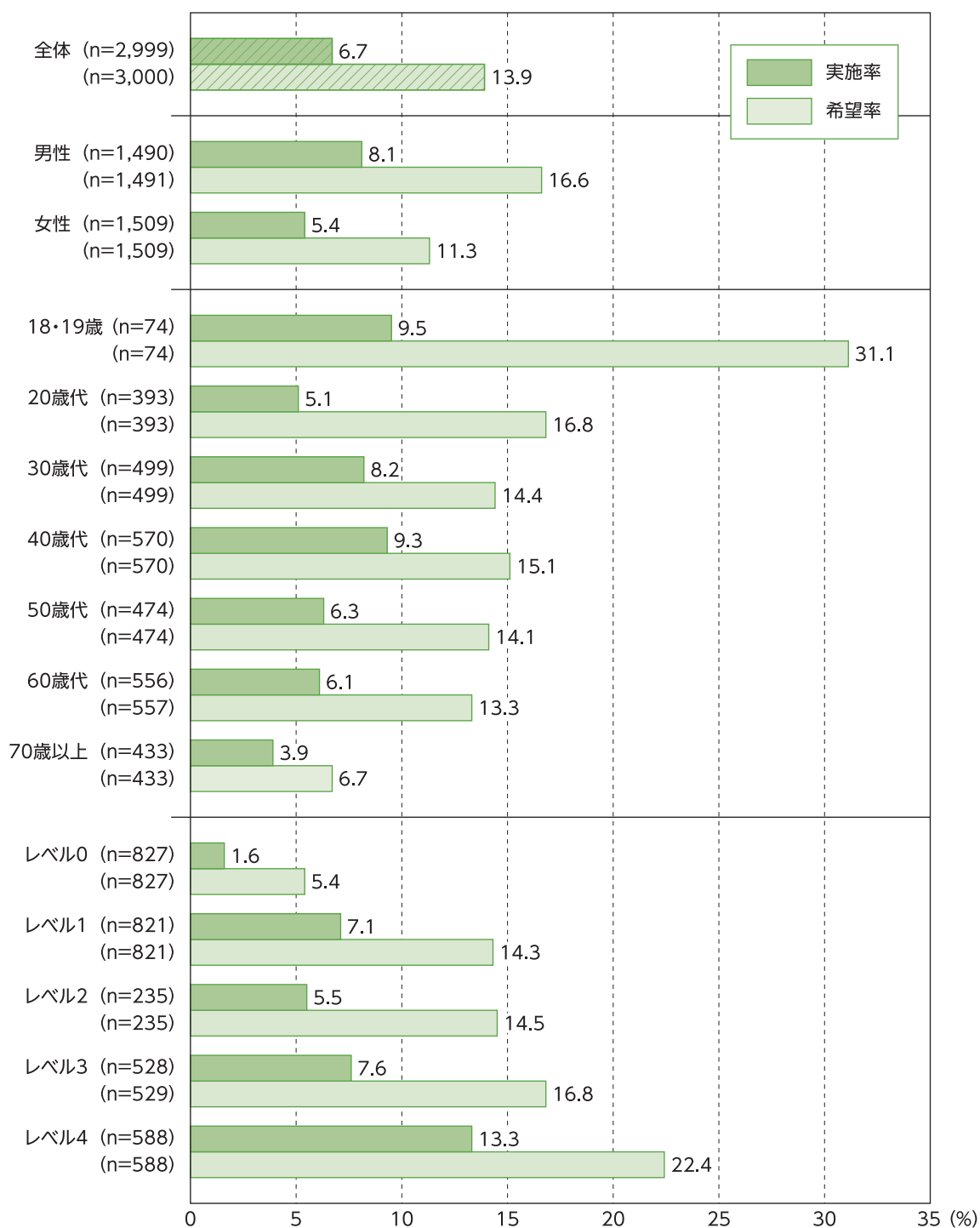
次に性・年代別にみると、男性は18・19歳10.5%、20歳代7.5%、30歳代9.4%、40歳代8.3%、50歳代7.6%、60歳代9.2%、70歳以上5.6%であり、女性は18・19歳8.3%、20歳代2.6%、30歳代7.0%、40歳代10.4%、50歳代5.1%、60歳代3.2%、70歳以上2.5%であった（図6-3）。男性は18・19歳、女性は40歳代が最も高く、続いて男性は30歳代、女性は18・19歳の実施率が高い割合を示した。



【図6-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

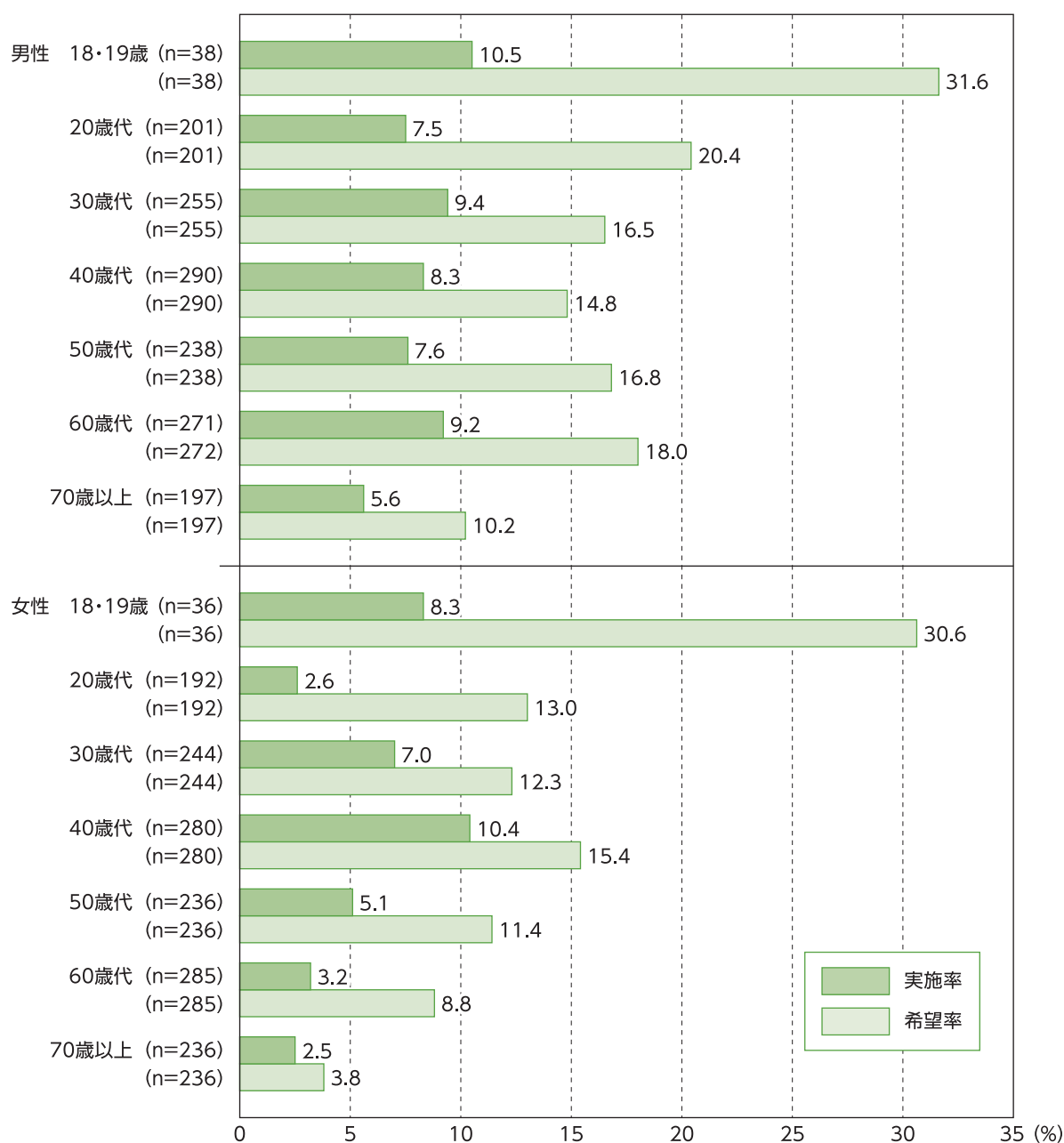
注) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図6-2】スポーツボランティア実施率および実施希望率(全体・性別・年代別・レベル別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016



【図6-3】スポーツボランティア実施率および実施希望率(性別×年代別)

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

6-2 スポーツボランティアの実施希望率

今後のスポーツボランティアの実施希望をたずねたところ、「行いたい」(「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」)と回答した者の割合(実施希望率)は、全体で13.9%(「ぜひ行いたい」2.1%+「できれば行いたい」11.8%)で

あり、2014年調査と比較して0.6ポイント減少した(図6-4)。

スポーツボランティア実施率と実施希望率を性別、年代別、運動・スポーツ実施レベル別にみると、全体では、実施率6.7%に対して実施希望率13.9%と、潜在需要の割合(実施希望率-実施率)は7.2ポイントとなり、2014年調査の潜在需要の割合6.8ポイント(実施希望率

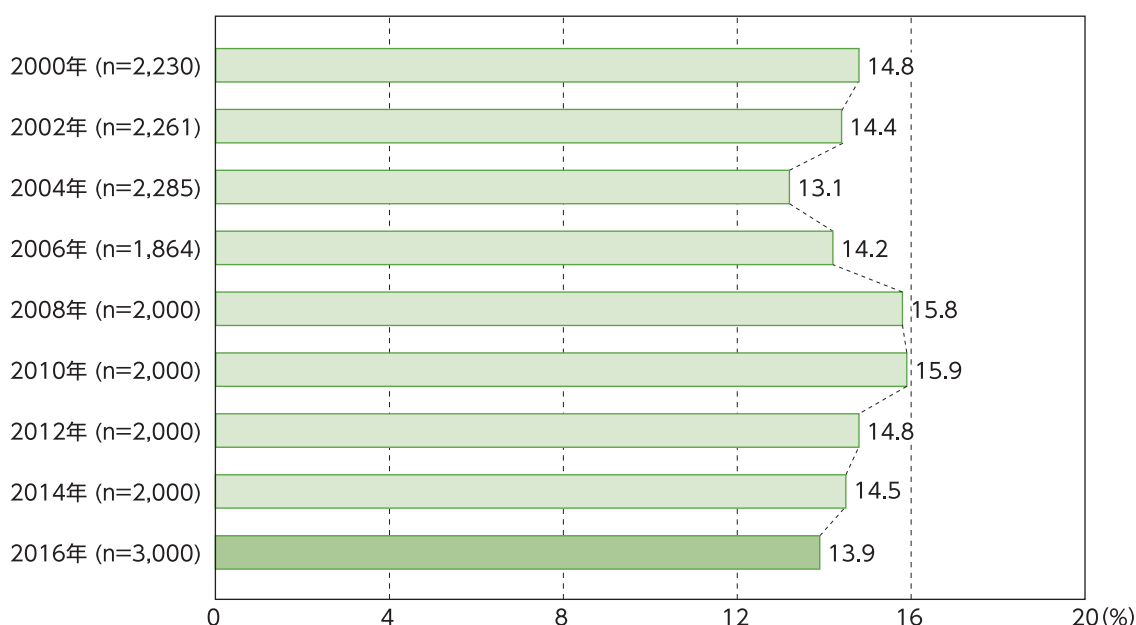
14.5%—実施率7.7%)と比較して微増となった(図6-2、図6-3)。

性別にみると、実施希望率は男性16.6%、女性11.3%であり、男性の割合が高い。実施率と比較すると、男性は8.5ポイント、女性は5.9ポイント実施希望率が上回っていた。

年代別にみると、実施希望率は18・19歳31.1%、20歳代16.8%、30歳代14.4%、40歳代15.1%、50歳代14.1%、60歳代13.3%、70歳以上6.7%であった。潜

在需要の割合が最も高いのは、18・19歳の21.6ポイント、次いで20歳代の11.7ポイント、50歳代の7.8ポイントであった。

運動・スポーツ実施レベル別にみると、実施希望率は「レベル0」5.4%、「レベル1」14.3%、「レベル2」14.5%、「レベル3」16.8%、「レベル4」22.4%であり、運動・スポーツ実施レベルが高いほど、スポーツボランティアの実施希望率も高い。潜在需要の割合が最も高いのは、「レベル3」の9.2ポイント、次いで「レベル4」9.1ポイントであった。



【図6-4】スポーツボランティア実施希望率の年次推移

注) 2014年調査までは20歳以上を調査対象としているが、2016年調査は18・19歳を追加した。

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

6-3 スポーツボランティアの内容

スポーツボランティアの実施内容について、『日常的な活動』『地域のスポーツイベント』『全国・国際的なスポーツイベント』に大別し、具体的な活動の内容、年間の実施回数についてたずねた(表6-1)。

具体的な活動内容は、『地域のスポーツイベント』における「大会・イベントの運営や世話」が49.5%と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」

35.6%、「スポーツの指導」29.7%、「スポーツの審判」22.8%となっている。これらの活動内容に対する回答率の合計は171.8%であり、1人あたり平均1.7種類のボランティア活動を実施していると推計された。

年間の活動回数は、『日常的な活動』の「スポーツの指導」が年間平均43.1回と最も多く、次いで『日常的な活動』の「団体・クラブの運営や世話」28.5回、「スポーツ施設の管理の手伝い」12.4回であった。

【表6-1】スポーツボランティアの実施および希望内容(複数回答)

スポーツボランティアの内容		実施率(%) n=202	実施回数 (回/年)	実施希望率(%) n=415	実施希望率-実施率 (ポイント)
日常的な活動	スポーツの指導	29.7	43.1	23.6	-6.1
	スポーツの審判	22.8	10.6	14.2	-8.6
	団体・クラブの運営や世話	35.6	28.5	26.7	-8.9
	スポーツ施設の管理の手伝い	9.9	12.4	17.8	7.9
地域のスポーツイベント	スポーツの審判	15.8	7.5	10.8	-5.0
	大会・イベントの運営や世話	49.5	2.7	54.7	5.2
全国・国際的なスポーツイベント	スポーツの審判	2.0	1.7	3.6	1.6
	大会・イベントの運営や世話	6.4	3.2	15.4	9.0

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016

6-4 スポーツボランティア実施希望内容

今後、スポーツボランティアを「行いたい」「ぜひ行いたい」+「できれば行いたい」と回答した者が希望する活動内容を示した(表6-2)。

全体では、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が54.7%と最も高く、スポーツボランティア実施希望者の半数以上が今後行いたい活動のひとつとして回答している。次いで「日常的な団体・クラブの運営や世話」26.7%、「日常的なスポーツの指導」23.6%、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」17.8%「全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話」15.4%となっている。これらの活動内容に対する回答率の合計は170.1%であ

り、1人あたり平均1.7種類のボランティア活動の実施を希望している。

性別にみると、「地域のスポーツイベントの運営や世話」が男性53.4%、女性56.5%と男女ともに最も割合が高い。次いで男性では「日常的なスポーツの指導」33.6%、「日常的な団体・クラブの運営や世話」27.1%、「日常的なスポーツの審判」18.6%となった。女性では「日常的な団体・クラブの運営や世話」26.2%、「全国・国際的なイベントの運営や世話」19.6%、「日常的なスポーツ施設の管理の手伝い」18.5%の順となった。男性は日常的なスポーツの指導や審判、女性は規模を問わずイベントの運営や世話を希望する割合が高い。

【表6-2】今後希望するスポーツボランティアの内容(全体・性別：複数回答)

(%)

スポーツボランティアの内容	全 体 (n=415)		男 性 (n=247)		女 性 (n=168)	
地域のスポーツイベントの運営や世話	1位	54.7	1位	53.4	1位	56.5
日常的な団体・クラブの運営や世話	2位	26.7	3位	27.1	2位	26.2
日常的なスポーツの指導	3位	23.6	2位	33.6		8.9
日常的なスポーツ施設の管理の手伝い	4位	17.8		17.4	4位	18.5
全国・国際的なスポーツイベントの運営や世話		15.4		12.6	3位	19.6
日常的なスポーツの審判		14.2	4位	18.6		7.7
地域のスポーツイベントでの審判		10.8		14.6		5.4
全国・国際的なスポーツイベントでの審判		3.6		4.5		2.4
スポーツ情報誌やホームページ作成の手伝い		3.1		3.6		2.4

資料：笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」2016